

Junko Hagiwara's セビージャ・ダイアリー

Vol.4 教えるということ

私の教授活動はセビージャで始まった。当時師事していたトロンボに頼まれて彼の留守中に代教をしたのがきっかけで、その後数名にレッスンを請われ、彼の許可のもとクラスを始めた。生徒さんの大半は外国人フラメンコ留学生で、彼女達は「今まで誰も教えてくれなかったことをジュンコは教えてくれる」と言っていた。



photo by アントニオ・ペレス

それが本当かどうかは分からない。ただ1つ言えることは、私は他の先生の受け売りはしない。自分の経験から学びとったことだけを教えている。なぜならそれが心と身体を通した、私にとっての「真実」。だからこそ教えられるのであって、それ以外に関しては確信を持って伝えられないからだ。踊る時に私が相手に伝えられるのは、自分が持っている「真実」だけなのと同じことである。

そしてもっと重要なことは、その「真実」がフラメンコの唯一の「真実」ではないということだ。私が学んでいること、それは自身の人生をかけていることだが、フラメンコから見たらコシヨウ粒ほどだろう。フラメンコは無限の存在だが、私には限りがある。だからこそ生徒さんには私が教えることだけに縛られてほしくないし、私もそれに縛られたくない。学ぶことは常にもっともっとある。

教える以上、自分自身と自分が伝えることには責任を持つ。でも最終的に、偉大なフラメンコの前では私も「生徒」であると思う。そしてたとえ「先生」と呼ばれても、そのことは忘れないようにしたい。

2010年5月 萩原淳子

萩原淳子・少人数制クルーシージョ2010年7月開講
詳細はこちら→<http://www.layunko-flamenco.com/JA/>